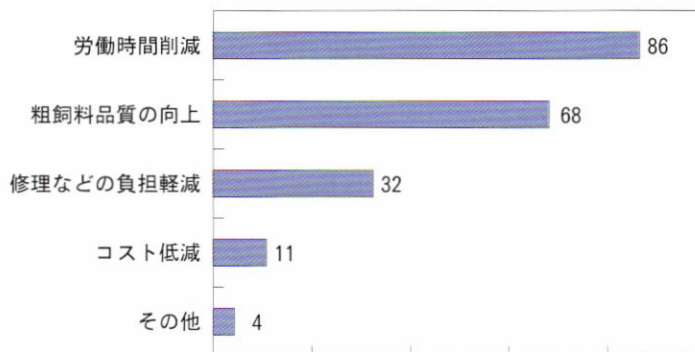


デメリットとしては、委託先の永続性への不安やコストの上昇、粗飼料品質の低下、大型機械によるほ場の損傷などの答えがありました。

粗飼料品質では「向上」が68%ありましたが、「低下」したものもありました。これは、収穫時期によるもので、順番や天候により評価が分かれています。

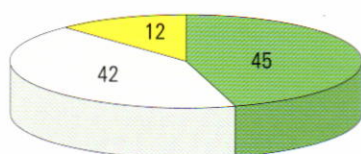
発酵品質および牛の食べ込みは「改善された」が全体の75~80%を占めています。これは短期間で詰め込みが終わり密封され、均一な品質のサイレージが得られるためです。



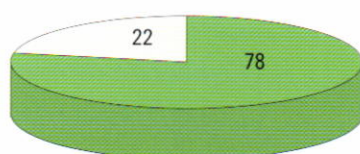
コントラクタ利用によるメリット (%) (重複回答)



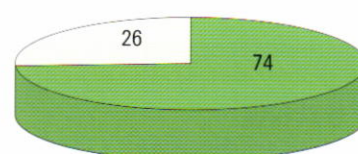
コントラクタ利用によるデメリット (%) (重複回答)



収穫時期



発酵品質



牛の食べ込み

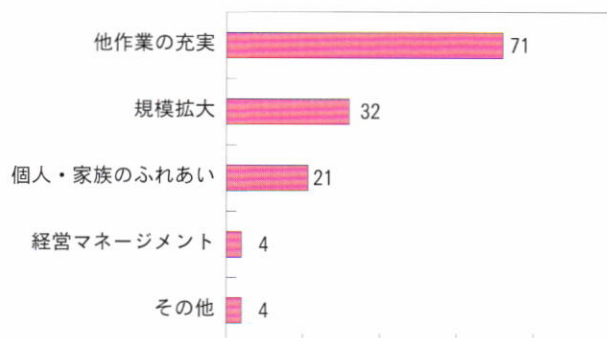
■ 改善された ■ 変わらない ■ 悪くなった

粗飼料品質の変化 (%) (重複回答)

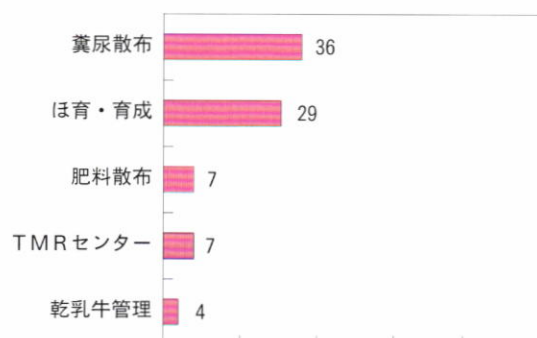
経営内での位置づけ

コントラクタ利用で生じた余剰時間は、乳牛管理作業など他作業の充実や規模拡大など生産の向上に向けられる割合が多くなっています。

今後、委託したい作業としては糞尿散布やほ育・育成などがあげられています。



コントラクタ利用で生じた余剰時間の活用 (%) (重複回答)



今後外部委託したい作業 (%) (重複回答)

コントラクタの利用は、「省力化」というメリットだけでなく、粗飼料品質の向上や他作業の充実など「生産性の向上」にも効果があります。

支援システムの利用Ⅱ（TMRセンター）

TMRセンターは草地管理、自給飼料の共同調製・貯蔵及びTMRの調整・宅配までをシステム化した組織です。地域で課題となっている労働軽減、コスト低減に対応したシステムとしてコントラクタ組織とともに期待が高まっています。

TMRセンターは興部町で既に組織化され、J A別海地域でも計画が進められています。

設立の背景

- ・牧草収穫作業個人体系の限界（適期収穫、良質粗飼料の確保）
- ・労働力の限界（夫婦二人）
- ・後継者問題（継続的な営農）
- ・糞尿問題（適期散布、有効利用）
- ・投資による経済的負担の増加（分散とコスト低減）
- ・コントラクタの限界（収穫時期の選択権）
- ・飼料給与・飼養管理の限界（1、2番草の併給及び給与回数）

取り組みと期待される効果

牧草収穫

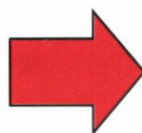
機械の共同所有
共同作業体系の確立

草地管理

草地の集約化
作業の一元化
肥料の一元仕入れ

飼料給与

購入飼料の一元仕入れ
サイレージの一括調製・貯蔵
TMR化



- ・経費の削減
- ・労働力の確保
- ・労働負担の軽減
- ・作業効率の向上
- ・粗飼料品質の向上
- ・乳量・乳成分・乳質の向上

有限会社オコッペフィールドサービスの例（興部町）

①組織の概要

粗飼料貯蔵施設、飼料調製施設、ミキサー、運搬車、牧草収穫機械等を組織で所有、管理しています。また個々の農家は牛舎にTMR受入施設を設置しています。

組織概要		主な機械			
構成員戸数	7戸	自走式ハーベスタ	1台	コーンプランタ	1台
草地面積	350ha	自走式ミキシングフィーダ	1台	ブロードキャスト	3台
コーン栽培面積	30ha	トラクタ	5台	マニュアルスプレッタ	7台
経産牛（一戸当）	50～60頭	モアコンディショナ	2台	スラリーポンプ	1台
主な施設		ロールベアラ	2台	バキュームポンプ	2台
バンガーサイロ	9基	テッター	3台	テッピングワゴン	1台
飼料調整庫	231㎡	レーキ	3台	パワーハロー	2台
車庫	238㎡	ラッピングマシーン	2台	トラック4t	4台
管理棟	66㎡				